

製品名: TGase2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18846**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	90kDa

抗原情報

遺伝子名	TGM2
別名	TGM2; Protein-glutamine gamma-glutamyltransferase 2; Tissue transglutaminase; Transglutaminase C; TG(C); TGC; TGase C; Transglutaminase H; TGase H; Transglutaminase-2; TGase-2
遺伝子 ID	7052.0
SwissProt ID	P21980
免疫原	抗血清は、ヒトトランスグルタミナーゼ 2 由来の合成ペプチドに対して産生された。AA 範囲: 1-50

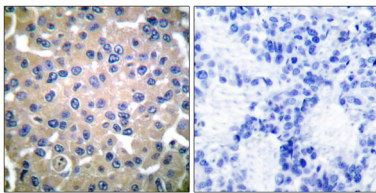
背景

トランスグルタミナーゼは、 ϵ - γ グルタミルリジンイソペプチド結合によるタンパク質の架橋を触媒する酵素です。トランスグルタミナーゼの一次構造は保存されていませんが、活性部位のアミノ酸配列はすべて同じであり、その活性はカルシウム依存的です。この遺伝子によってコードされるタンパク質はモノマーとして作用し、レチノイン酸によって誘導され、アポトーシスに関与していると考えられます。そして、コードされるタンパク質はセリアック病に関与する自己抗原です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: タンパク質グルタミン + アルキルアミン = タンパク質 N(5)-アルキルグルタミン + NH(3),補因子: サブユニットあたり1個のカルシウムイオンを結合する.,疾患: TGM2の欠陥は、早期発症型2型糖尿病に関与する.,機能: タンパク質の架橋およびポリアミンとタンパク質の結合を触媒する.,誘導: レチノイン酸による.,オンライン情報: 組織トランスグルタミナーゼのエントリー,類似性: トランスグルタミナーゼスーパーファミリーに属する。トランスグルタミナーゼファミリー.,サブユニット: モノマー.,

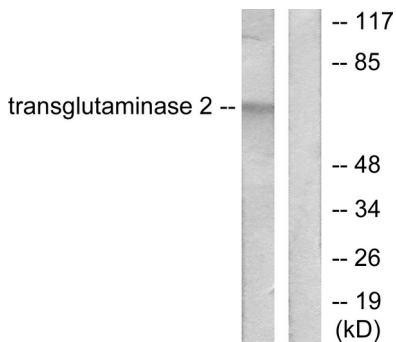
研究分野

ハンチントン病;

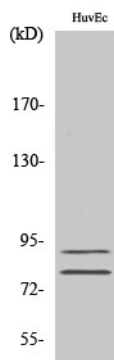
画像データ



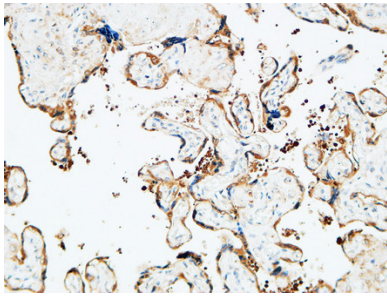
トランスグルタミナーゼ2抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



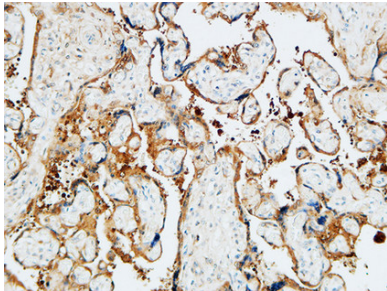
トランスグルタミナーゼ2抗体を用いたHUVEC細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



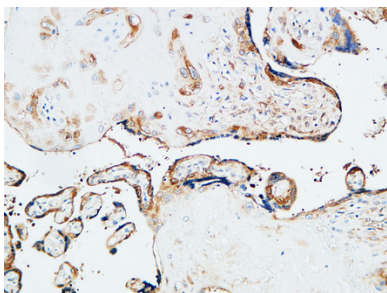
TGase2ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



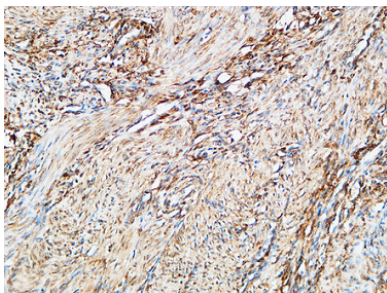
パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



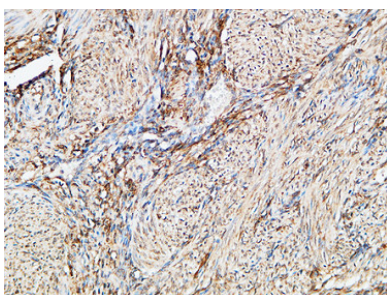
パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



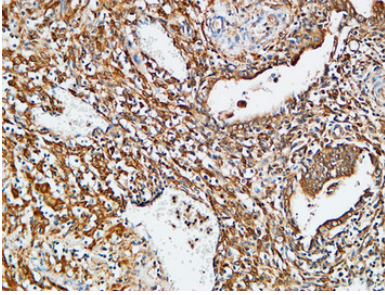
パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト子宮内膜の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト子宮内膜の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト子宮内膜の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。